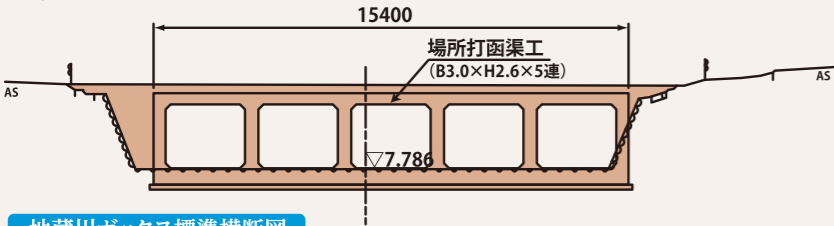


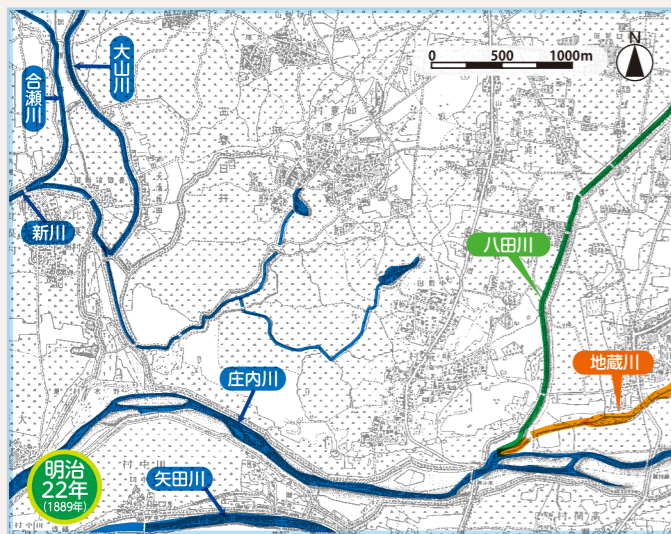
# 庄内川水系について

## ■新地蔵川の開削

- 改修前の地蔵川は、八田川が庄内川へ合流する地点の直上流で合流していたため、庄内川本川の水位が高くなると、地蔵川の排水は困難になり、合流点付近の低平地から内水湛水が生じた。
- 昭和17(1942)年から直轄河川改修事業として、新たな水路の開削が庄内川右岸堤防に沿って始められたが、この事業は、昭和25(1950)年に愛知県に引き継がれ、昭和27(1952)年に全体計画の見直しが行われて、庄内川堤防から離れて新川に至る経路となった。計画高水流量は、流域への貯留を見込まないこととしたため、19.17m<sup>3</sup>/sから63.18m<sup>3</sup>/sへと増加した。
- 工事は昭和27(1952)年から昭和30(1955)年にかけて上流部の築堤、護岸整備が行われ、昭和32(1957)年から新地蔵川開削に着手され、昭和43(1968)年に概成した。主な工事は、八田川を伏せ越す5連の暗渠および約5kmにおよぶ幅30~40mの新河道の開削工事であった。堤防断面は、余裕高0.8m、天端幅3.0m、法勾配2割とし、水衝部には石張りの護岸を設置した。
- 新地蔵川の開削によって、地蔵川の洪水は、新川に排水されるようになったが、平常時の流水の一部は、転倒堰により堰上げられ、御幸樋門より、八田川に合流する。



地藏川ボックス標準横断面図



## ■新川圏域内の主要河川である合瀬川、五条川の改修

- 合瀬川、五条川は、ともに用水路の性格が強い河川である。合瀬川は慶安元(1648)年に開削された木津用水路を兼ねており、五条川は木津用水路の荒井堰から分派されている。
- 入鹿池決壊後の課題であった五条川の改修は昭和7(1932)年に開始され、昭和28(1953)年に新郷瀬川からの分岐点に到達し、完了した。
- 合瀬川とともに新川に合流する大山川は、喜惣治新田を囲むように流れていたが、昭和10年(1935)年に中小河川改良事業によりショートカットされた。
- 時局匡救事業等による五条川、新川、大山川の大改修を経て、昭和16(1941)年に新川水系の計画高水流量は、新川600m<sup>3</sup>/s、五条川180m<sup>3</sup>/s、大山川100m<sup>3</sup>/sと設定された。
- 合瀬川の改修は、昭和34年(1959)年からの中小河川改修事業により開始され、計画高水流量は121m<sup>3</sup>/sと設定された。



岩倉待合橋の五条川改修記念碑(昭和15年)



八田川伏せ越し部の現況



# 災害について

## 東海豪雨

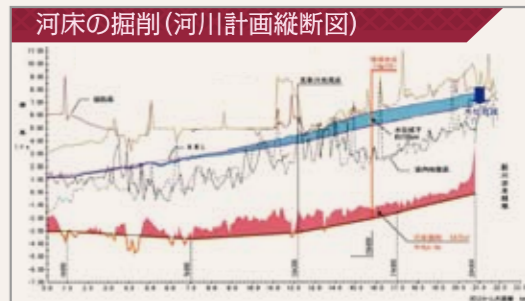
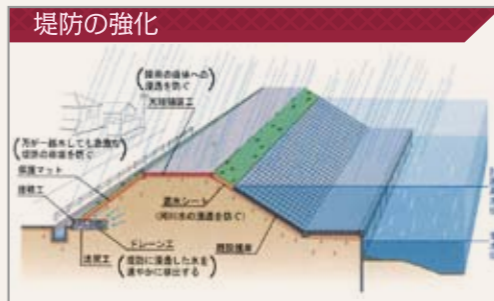
### ■気象概要(平成12年9月11日出水)

- 平成12(2000)年9月11日から12日にかけて、日本付近に停滞していた秋雨前線は、台風14号からの暖かく湿った気流の流れ込みにより活発になり、東海地方は愛知県を中心に記録的な大雨となった。このため、名古屋市内では広範囲に内水被害が発生し、また、愛知県西部を流れる一級河川新川では堤防が決壊したのをはじめ、県内の数河川で破堤が発生した。
- 浸水家屋は愛知県内で約68,000棟を超え、伊勢湾台風に次ぐ大水害となった。この大雨で名古屋気象台が観測した、日最大1時間降水量97.0mm、最大日降水量428.0mm、最大24時間降水量534.5mmは、いずれも統計開始以来で最大である。

### ■一級河川新川 河川激甚災害対策特別緊急事業

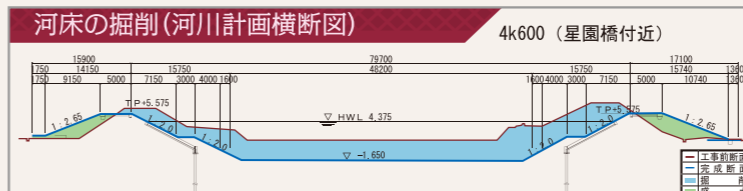
東海豪雨による新川流域の浸水被害は、新川流域の洪水流出に洗堰からの庄内川洪水の流入が重なり、新川の計画高水位を上回る高い水位が長時間継続し、新川堤防の破堤及び内水氾濫が発生したものである。そこで、新川の実績流量に河川ポンプの増量を見込んだものを対象流量とし、整備メニューは、新川の洪水位を全般的に低下させ、破堤防止と内水被害の軽減を図るためのものとした。

- 事業内容
- ①堤防の強化 L=17.2km
  - ②河床の掘削 V=65万m<sup>3</sup>
  - ③橋梁の改築・補強 改築:7橋 補強:11橋
  - ④遊水地の整備 V=44万m<sup>3</sup>
  - ⑤洗堰の高上げ 約1m嵩上げ
  - ⑥内水河川ポンプの増強 [水瀬川]30~40m<sup>3</sup>/s [樽田川]12.5~25m<sup>3</sup>/s [中江川]0~25m<sup>3</sup>/s
  - ⑦防災情報システムの整備 河川監視体制の整備 水位雨量等情報提供

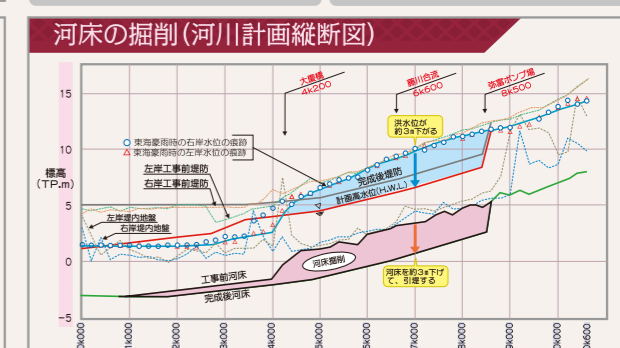
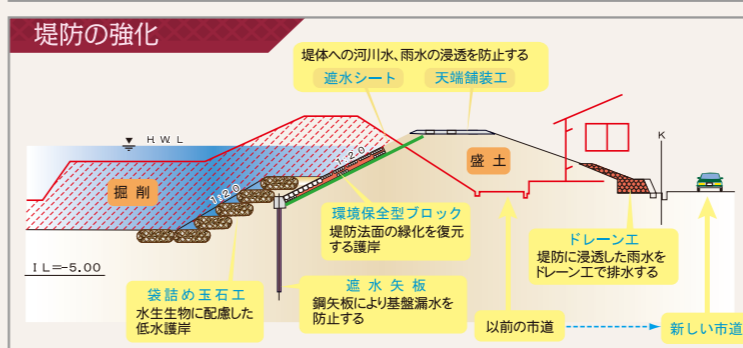


### ■二級河川天白川 河川激甚災害対策特別緊急事業

東海地方を襲った集中豪雨(東海豪雨)により、二級河川天白川沿川では、約3,500億円におよぶ甚大な被害となり、流域に深刻な傷跡を残した。これに対し、愛知県は、平成12年度より5カ年で総額282億円の緊急的な治水対策として「河川激甚災害対策特別緊急事業(激特事業)」により、河道の拡幅、堤防の強化、河床の掘削などの対策を実施した。再度、同様な降雨に見舞われても、洪水を安全に流下させるとともに、内水被害の軽減を図るためのものとした。



- 事業内容
- ①河道の拡幅 L=4.35km
  - ②堤防の強化
  - ③河床の掘削 V=125万m<sup>3</sup>
  - ④橋梁の改築 大蔵橋(国道1号) 野並橋(主要地方道東海線) 皇国橋(主要地方道緑名古線) 平子橋(市道大蔵池線)
  - ⑤防災情報システムの整備 天白川光ファイバーネットワークの整備(映像や水位のデータなどをリアルタイムに収集) 河川監視カメラ(CCTV)の設置(合計6基) 天白川下流(天白川河口、中川、大蔵橋) 天白川上流(藤川合流、野並橋、菅田橋) 光ファイバーの整備(27km)



【東海豪雨】名古屋市西区地内の新川左岸堤防破堤状況



【東海豪雨】名古屋市天白区平子橋周辺の状況

